

人材育成と権利活用の 仕組みを

小野 晋也 衆議院議員



今日は特技懇親会にこんなにたくさんの皆さん方がお集まりになられ、盛大な会合が開催されることを心からお喜びを申し上げたいと思います。

今回は特に、官邸での知的財産戦略会議の報告書が出されました直後であり、これは、今まで皆様方からもお話があったと思いますが、私が拝見いたしましても、総合的な幅の広がりにおいても、深みにおいても、また新しい施策の導入においても、おそらく世界に冠たる枠組みをつくられたものだと、高く評価をさせて頂いている次第であります。

しかし、これはあくまで、日本の知財戦略は、この方向を目指してこういう形をつくらうというものが得られたということであり、そこにいかなる魂を入れていくのか、どういう形でこれを実質的な日本の国益に結び付けるものにするのか、さらに人類の発展・繁栄のための道具として、いかに使っていくのかとなりましたときには、今日、お集まりの皆さん方のそれぞれの立場でのご尽力が求められるものだと思っている次第です。それだけに、新世紀を迎えてもう3年という年になりますけれども、皆さん方のこれからの一層のご活躍を心からご期待をしたいと思う次第であります。

ところで今回、知的財産戦略会議で日本の国家としての方向が示されました。ならば、これから先に求められてくるものはいったい何だろうかと考えた場合に、1つの大きな要素が、私はやはり人だと思えます。いかなる立派な考え方があったとしても、いかなる立派なシステムが社会の中に準備されたとしても、それを具体的に動かしてそこにエネルギーを与えていくのは、人である。つまり、知的財産権という問題に対して、これを自らの問題として、そこから大きな社会的な波及力を生みだそうと心掛ける人材を、どれだけこの日本の国で育成していけるか、この課題にこれから掛かっていかなければならないと思っているわ

けであります。

それと同時に、知的財産権というのは権利に過ぎず、その権利が活用されてこそ、実際の富を生み出してくる。また、その権利が流通していくことを通してこそ、社会の活力を生みだしてくることになると考えております。ですから、こういう知的財産権をうまく活用する仕掛け、うまく流通させていく仕掛けというものが、これから社会の側で工夫を要する問題の1つなのだろうという思いもあるわけです。これからの知財関係の皆さん方の役割、使命というものが、今までに増して重いものになってきていると、私どもは考えております。

私どもも、皆さんと共に、この日本の国の隆昌発展のために、人類のこれからの未来の輝きのために、全力でがんばっていきたく思っておりますので、皆さん方の温かいご指導、ご鞭撻、そしてそれぞれの場所でのご尽力を心からお願いをさせて頂いて、お祝いの言葉とさせて頂きたいと思えます。今日はどうもおめでとございました。

PROFILE

小野 晋也 (おの・しんや)

昭和30年4月28日生まれ 衆議院議員(自由民主党)

< 主な現職 >

衆議院内閣委員会理事

自由民主党政務調査会副会長

自由民主党経済産業部会知的財産政策小委員会委員
知的財産制度に関する議員連盟幹事